グローバル人材育成部目次

1　相談・交流の基本的な考え方
2　相談業務
　1）相談・交流業務の人員配置
　2）相談の場所と時間帯
　3）相談状況
　　①　身分別相談状況
　　②　内容別相談状況
　　ⅰ　研究・学習
　　ⅱ　就職・アルバイト
　　ⅲ　奨学金・授業料
　　ⅳ　生活一般
　　ⅴ　入学・進学
　　ⅵ　交流活動
　　ⅶ　ビザ・在留
　　ⅷ　事件・事故
　　ⅸ　その他
　4）相談業務における課題
　5）就職支援
　　①　支援の考え方
　　②　就職実績
　　③　就職希望者リスト送付と留学生向け個別会社説明会
　　④　福井大学留学生就職支援プログラムの実施
　　⑤　就職内定者アンケート実施
　　⑥　就職支援室との連携
　　⑦　北陸経済連合会主催「北陸地域における留学生人材活用・グローバル人材育成研究会」で講演
　　⑧　就職支援における課題
　6）日本人学生の海外留学支援
　　①　人員体制
　　②　相談状況
　　③　情報提供
　　ⅰ　学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレット等の配布

④　海外留学状況

ⅰ　交換留学による海外留学者数

ⅱ　協定校が開催する短期研修プログラムへの派遣

⑤　日本人学生の海外留学支援における課題

3　学内交流活動

1）定期交流活動

2）その他学内活動

3）福井大学留学生会

①　設立背景と事務局構成

②　福井大学留学生会の活動

4）学内交流活動の課題

4　地域社会との相互支援交流活動

1）小学校等への一日講師派遣

2）福井県等官界とのネットワークと交流活動

①　福井県との連携活動

ⅰ「スプリングプログラム in 上海」を共同事業として実施

ⅱ　福井県国際交流会館指定管理者選定委員会に委員長として支援

ⅲ　公財）福井県国際交流協会外部評価委員会に委員長として支援

②　福井県国際交流協会及び JICA 北陸支部との連携

③　福井家庭裁判所での家事調停支援

3）商工会議所等産業界とのネットワークと交流活動

4）ネットワーク誌「こころねっと」の発行及び地域・国際交流ネットワークの構築

①　ネットワーク誌「こころねっと」の発行

②　地域・国際交流ネットワークの構築

5）福井大学留学生同窓会活動

①　福井大学留学生同窓会設立の背景

②　福井大学留学生同窓会設立

③　支部設立の動き

④　同窓会の活動

⑤　福井大学留学生同窓会世界大会の開催

⑥　スプリングプログラム in 上海

⑦　浙江理工大学サマープログラム

6）福井県留学生交流推進協議会

7）課題

①　地域社会相互支援活動と留学生の学習・研究活動のバランス

②　同窓会各国支部網の活用

③　今後の活動方向

1　相談・交流の基本的な考え方

留学生支援、特に相談業務の考え方についての基本的な視点は次の通りである。

1）各種の学内活動及び地域交流活動を通して、留学生と留学生、留学生と日本人学生、留学生と地域市民、留学生と産業界、等々のネットワークを構築し、そのネットワークを通して、学生を支援する。

2）問題が発生してから対応する問題解決型の相談から、問題発生を未然に予防する、更には、自己研鑽・社会活動展開のための相談へと、その重点の移行を目指す。

3）精神的な落ち込み等のケアにおいても、多くの場合、その背後にある、より具体的な問題解決なしには対処できないことに留意する。

4）発生した問題解決においては、学内外の諸機関・専門家と連携して解決する。

2　相談業務

1）相談・交流業務の人員配置

福井大学国際交流センターでは相談・交流業務の担当として中島教員１名が配置されている。他方、国際課には課長以下職員が10名、事務補佐員が３名いる。事務補佐員３名のうち１名は医学部のある松岡キャンパスで執務している。国際課には主に事務手続き関係の質問が行き、相談・交流担当教員の方には、より複雑な問題について、腰を据えてゆっくり相談したい場合にやってくる。それぞれの相談に費やす時間は１回30分から１時間程度である。

2）相談の場所と時間帯

いわゆる相談専用室はなく担当教員の研究室で相談を受ける。研究室には５人用のソファーセットがあり、寛いだ雰囲気が提供できる環境にある。相談時間帯は国際交流センターホームページ（http://ryugaku.isc.u-fukui.ac.jp/）に掲載されている。また、研究室入口ドアには「いつでもどうぞお入(はい)りください。不在(ふざい)の場合(ばあい)のメモは上(うえ)の籠(かご)にいれてください」との掲示があり、籠が用意されている。また、研究室のドアは常時開放されている。つまり、下記時間帯以外でも、授業中でない限り相談を受ける。

表１　相談の時間帯

曜日	午前	午後
月		14:00 ～ 17:00
水	9:00 ～ 12:00	
木	9:00 ～ 12:00	
金	9:00 ～ 12:00	

３）相談状況

相談・交流担当教員の本学着任日（平成12年８月１日）以降の全相談データを記録し、身分別、内容別に分類してあるので、いつでも統計資料が作成できる状態になっている。

①　身分別相談状況

平成25年度における身分別相談状況は表２の通りである。

以下相談件数はすべて、相談・交流担当教員の研究室来訪による相談のみである。e-mailによる相談、国際課における相談等は含まれていない。

表２　平成25年度身分別相談状況　（相談件数）

	医学部・医学系研究科		教育地域科学部・教育学研究科		工学部・工学研究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	0	1	0	6	16	9	16	16	32	41.0%
学部学生	0	0	1	0	17	3	18	3	21	26.9%
研究生	0	0	0	2	2	0	2	2	4	5.1%
特別聴講生	0	0	10	8	1	2	11	10	21	26.9%
小計	0	1	11	16	36	14	47	31	78	
合計	1		27		50		78			
割合	1.3%		34.6%		64.1%					

・研究生には、特別研究学生を含む。　　・特別聴講学生には、科目等履修生を含む。

一方、平成25年10月１日現在の身分別在学留学生数は表３の通りである。

表３　平成25年10月１日現在の身分別在学留学生数　（人数）

	医学部・医学系研究科		教育地域科学部・教育学研究科		工学部・工学研究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	3	2	0	9	44	16	47	27	74	38.9%
学部学生	0	0	1	1	43	9	44	10	54	28.4%
研究生	0	0	2	6	9	5	11	11	22	11.6%
特別聴講生	0	0	3	22	10	5	13	27	40	21.1%
小計	3	2	6	38	106	35	115	75	190	
合計	5		44		141		190			
割合	2.6%		23.2%		74.2%					

さて、表２及び表３からわかるように、在学留学生の身分別の割合が、概ねそのまま、身分別相談件数の分布割合と符合している。

ただ、一般的に、大学院生の場合は、母国で学部教育を受けた後来日し、半年とか1年の研究生生活を経て、院生になる学生が多いため、日本滞在期間が短く、日本語力も低い。適応力がついていないことから、相談に来訪することが多い。更に、修了者の大半が日本国内就職を目指すこと、研究の壁にぶつかることが多いこと、それらも相談件数の増加要因となっている。

他方、学部生は日本語学校を経て日本語力を身につけ日本語による留学生試験を突破し、授業もすべて日本語で受講するなど、日本語力もある上に、日本滞在経験も長く問題解決力もあるので、相談件数は少ない傾向にある。

また、大学院生や研究生の場合は、研究室に所属しているので、指導教員や研究室仲間との緊密な人間関係が構築できるが、そのような環境にない特別聴講学生は周りに相談する相手が少なく、孤立することがある。

尚、医学部・医学研究科の場合、留学生数自体が少ないこと、それに両キャンパスが地理的に離れていることから相談はほとんどない。全員が大学院生で、研究室に所属し、指導教員や研究室の仲間の支援を受けていると思われる。今年度は医学部留学生係からの要請により、イスラム教徒女子学生の環境不適応案件の相談のため松岡キャンパスに１回だけ足を運んだ。尚、学内交流活動や地域交流活動には医学研究科の留学生も積極的に参加している。相談・交流担当教員から交流関係情報が常時メールで配信されているからである。

② 内容別相談状況

平成25年度における内容別相談状況は表４の通りである。

表４　平成25年度内容別相談状況　（相談件数）

	医学部・医学系研究科		教育地域科学部・教育学研究科		工学部・工学研究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
研究・学習	0	0	0	0	11	2	11	2	13	16.7%
就職・アルバイト	0	0	3	7	13	9	16	16	32	41.0%
奨学金・授業料	0	0	1	2	2	1	3	3	6	7.7%
生活一般	0	1	0	1	1	0	1	2	3	3.8%
入学・進学	0	0	3	2	2	0	5	2	7	9.0%
交流活動	0	0	1	0	3	1	4	1	5	6.4%
ビザ・在留	0	0	3	4	4	1	7	5	12	15.4%

	医学部･医学系研究科		教育地域科学部･教育学研究科		工学部･工学研究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
事件・事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
小計	0	1	11	16	36	14	47	31	78	
合計	1		27		50		78			
割合	1.3%		34.6%		64.1%					

平成15年度～平成25年度における内容別相談状況は下記表５の通りである。

表５　平成15－25年度の相談内容別相談状況　（相談件数）

	医学部･医学系研究科		教育地域科学部･教育学研究科		工学部･工学研究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
研究・学習	1		25	45	199	92	225	137	362	18.6%
就職･アルバイト	0	0	42	101	241	113	283	214	497	25.5%
奨学金・授業料	0	0	1	14	49	28	50	42	92	4.7%
生活一般	0	1	13	24	78	55	91	80	171	8.8%
入学・進学	0	2	17	51	152	102	169	155	324	16.6%
交流活動	0	0	24	48	168	61	192	109	301	15.4%
ビザ・在留	0	0	5	18	39	23	44	41	85	4.4%
事件・事故	0	0	15	6	62	34	77	40	117	6.0%
小計	1	3	142	307	988	508	1131	818	1949	
合計	4		449		1496		1949			
割合	0.2%		23.0%		76.8%					

表４及び表５から見ると、平成25年度の内容別相談件数は従来の内容別相談件数の割合とほぼ重なっているが、平成25年度の場合、「事件・事故」相談が全くない。他方、「就職・アルバイト」と「ビザ・在留」の相談が増えているが、これはセンターが留学生の国内就職に力をいれていること、「ビザ・在留」については日本政府の観光推進策の一環として入国ビザ不要または条件緩和が図られていることがある。さらに、留学生母国の経済発展による経済的余裕により気軽な気持ちで入学式・卒業式等に参加する父兄が増えていることもある。

i　研究・学習

研究学習に関する相談は例年多いが、院生からの相談がほとんどである。研究室内の人間関係、研究テーマそのもの、学位論文執筆の壁、などがある。特に、博士論文の場合にはかなりの学生がノイローゼ気味になる。査読の結果が届かない、今のテーマでは論文が書けない、などである。研究テーマや指導教員を変更したいということで、関係者と協議の上、結局研究室を変更するケースもある。

近年目立っているのが、博士の学位が取れずに、失意のまま帰国するケースが増えていることである。学ぶ側だけでなく、指導する教員の方に問題点があると思われるケースもある。本国政府の奨学金を受給している場合は、大使館等とも連絡調整しながら、本人の将来設計への影響を最小限にすべく対応している。

また、毎年工学部留学生が単位不足のために進級できないという相談が何件かある。

ii　就職・アルバイト

本学留学生の近年の国内就職者数は、2007年度30名、2008年度20名、2009年度15名、2010年度21名、2011年度20名、2012年度21名、2013年度16名となっている。健闘しているとは言え、就職環境は年々厳しくなっている。エントリーシートに登録しても、なかなか面接まで行けない。面接まで行っても落ちてしまう。連戦連敗の就職戦線に行き詰まり、自信を喪失する学生も多い。そのような学生に対して、心のサポートをすることが増えた。

一方、どんなに心のサポートをしても、就職が決まらないと問題は解決しないので、国際交流センターラウンジにおける個別企業会社説明会を実施したり、希望分野の会社をインターネットで一緒に検索したり、商工会議所等で講演したりして、側面から支援している。

就職に関する相談が例年相談件数のトップであるが、商工会議所、福井労働局、福井入国管理事務所との連携、特に産業界とのネットワークを通して支援している。

iii　奨学金・授業料

奨学金・授業料の相談件数が少ないのは、まず奨学金案件そのものが少ないこと、また、授業料免除は国際課が窓口であるためと思われる。ここ数年目立ってきたのが、授業料が払えずに除籍処分になって大学を去る学生が増えていることである。アルバイトもしないでのんびり過ごして、納入期限の土壇場で相談に来るなど、資金計画、生活設計の習慣が身についていないことがその主な原因であった。成績も芳しくなく、授業料免除もなく、バイトもせず、という学生への対応に苦慮している。

iv　生活一般

生活一般に関する相談は少ないが、健康問題、アパート隣人とのトラブル、異国での

生活による情緒不安定、結婚直後に妻を残しての来日、子供を母国に残しての来日、また、逆に、日本語が出来ない妻を同伴したことによる問題、乳幼児を同伴しての単身留学来日等々、その問題発生要因は多岐にわたる。目的喪失や学業不振による引きこもりも最近増えている。

住宅賃貸契約における保証人問題は外国人留学生支援会発足により機関保証制度が整っているため、皆無である。

v　入学・進学

今年度は国内他大学への進学相談がほとんどであった。一般的に入学進学に関する相談は学内進学、国内他大学進学、更には第三国への進学相談がある。相談内容は、指導教員の探し方、研究計画作成の指導、推薦状作成依頼がほとんどである。卒業留学生からも進学のための推薦状作成依頼が毎年数件あり、対応している。

vi　交流活動

学生の地域理解や親日感は、パーティ等に招待されることからではなく、地域の国際化への積極的貢献から生まれるとの認識から、小中学校や県内機関に留学生を一日講師として積極的に派遣している。相談内容としては、小学校等での発表方法や、準備内容等に関するものが多いが、その他に、引き受けたいが、指導教員が厳しくて許可がもらえそうにないというのもある。指導教員が交流活動と研究活動のバランスに苦慮している面が見られる。

vii　ビザ・在留

各種ビザの取得・更新手続き等に関しては国際課留学生係が中心に処理して、その段階で解決されているが、相談担当教員への相談は、家族や友人のビザ取得に関しての相談が中心であるが、具体的には保証人になってほしいというものが多い。友人のビザ取得に関しては、その身分が明確でないことから保証人にはならないが、家族の来日においてはまず指導教員に依頼するよう指導している。それでも毎年10件ほど相談担当教員が保証人になっている。在職証明書を添えて、保証人欄に署名するが、ビザ申請書の写しを手元に保管して対応することにしている。なお、これまで問題になった事案はない。

viii　事件・事故

今年度は事件・事故に関する相談はなかった。

一般的に事件・事故に関する相談は少ないが、その大半は交通事故案件である。被害者としてだけでなく、加害者の場合もあり、対応が難しい。また、数年に一度ほど万引きや盗撮などの事件がある。

事件・事故に関しては、国際課職員、指導教員、保険会社、警察などと緊密な連携を

とりながら対処している。

ix　その他

海外から直接メールが入り、修士課程、博士課程への入学等に関する問い合わせや相談を受けることも多い。主に工学部・工学研究科に関するもので、指導教員を紹介してほしいというものである。その場合には、当該専攻の留学生委員会委員に情報を転送し、専攻内全教員に受入意思を確認するように依頼している。毎年このような形で２、３名が本学研究科に入学している。

また、県内関係機関等から36件の来訪があり、交流活動、就職等について相談を受けた。

４）相談業務における課題

①　学生を支援するためには、幾重もの人的ネットワーク作りを更に推進することが必要である。

②　国際交流センターの施設が分散し、且つ、日本語教育の教室から離れた場所に、相談担当教員の研究室があるため、留学生が相談に来ても不在なことがある。相談業務を含め、センター業務全体が有機的な機能を果たすためには、センター施設の集中化が望まれる。

③　相談・交流部門は人員一人で多岐にわたる事業を担当し、且つ、授業も担当しているため、時間的及び精神的余裕に欠け、学生が相談に来にくい状況があったが、日本人学生の海外派遣を担当する教員が採用されたため、その問題は緩和された。

５）就職支援

①　支援の考え方

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延びる、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。他方、留学生も卒業後、実務経験を身につけたい、更には、人生設計を日本の産業界に求めたいという学生が増えている。国際交流センターは双方のニーズを調整しながら、留学生支援および経済界、特に県内企業の国際化支援を行っている

表６　就職支援の流れ（平成25年度の例）

５月中旬

留学生向け就職説明会実施

内容　：過去の就職実績・平成24年度の内定状況について

：これからの就職活動と相談について（就職の心構え、就職ナビ登録、履歴書作成法、自己ＰＲ書の書き方、内定後の注意事項等）

：各種資料配布

「就職活動の手引き2014年」福井大学作成

「外国人留学生のための就職活動ガイドブック」ランスタッド作成

：就職が内定している先輩の就職活動体験談

：就職希望者リスト登録

６月	福井大学就職希望留学生一覧を県内企業 140 余社に送付
随時	求人票、会社説明会等を e-mail で配信。及び個別に就職相談を受ける。
随時	国際交流センターラウンジにおいて、県内企業及び中部・近畿圏の個別企業採用説明会を実施。
内定決定	中島研究室に内定決定を連絡後、在留資格変更手続き等の相談を受ける。

②　就職実績

平成25年度の留学生の国内就職実績は下記表７の通り16名（県内３名）であった。

表７　平成25年度留学生国内就職実績

	企業名	所属	国籍	企業所在地
1	ナブテスコ㈱	工学研究科機械工学専攻	中国	東京都
2	ヤマハ発動機㈱	工学研究科機械工学専攻	中国	静岡県
3	楽天㈱	工学研究科電気電子工学専攻	中国	東京都
4	日立造船㈱	工学研究科機械工学専攻	中国	大阪府
5	日本特殊陶業㈱	工学研究科応用生物化学専攻	中国	愛知県
6	ダイキン工業㈱	工学研究科機械工学専攻	中国	大阪府
7	㈱荏原製作所	工学研究科機械工学専攻	中国	東京都
8	日産自動車㈱	工学研究科機械工学専攻	中国	東京都
9	アイア㈱	工学研究科機械工学専攻	中国	東京都
10	㈱日立製作所	工学研究科システム設計工学専攻	中国	東京都
11	瀋陽ステムソフト㈱	工学研究科情報・メディア工学専攻	中国	富山県
12	藤田光学㈱	教育地域科学学部	中国	鯖江市
13	㈱天晴データネット	教育研究科教科教育専攻	中国	福井市
14	東工シャッター㈱	教育学部交換留学生	中国	鯖江市
15	アイウェイズ㈱	工学部応用生物化学科	ベトナム	東京都
16	㈱大洋発條製作所	工学部電気電子工学科	ベトナム	大阪府

③　就職希望者リスト送付と留学生向け個別会社説明会

毎年就職希望者リストを県内140余社に送付して就職先開拓をしているが、県内外の企業から求人関係の問い合わせがあれば、可能な限り来訪いただき、本学国際交流センターラウンジに留学生を集め、個別会社説明会をお願いしている。平成25年度は９社の説明会を実施した。その成果が県内企業就職者３名の成果となっている。

④　福井大学留学生就職支援プログラムの実施

平成21年度より継続実施しているが、平成25年度も社団法人中部産業連盟と連携して下記のとおり実施した。

プログラム名：福井大学留学生就職支援プログラム
期間　　：平成25年９月27日～平成26年３月14日全20回
日時　　：毎週金曜日13:30－15:30
会場　　：福井大学国際交流センターラウンジ
参加者数　　：21名（工学部３年７名、工学博士前期１年10名、工学博士後期２年３名、博士後期３年１名）
内容　　：キャリアデザイン、ビジネス日本語、面接対策講座、社会人基礎力等

⑤　就職内定者アンケート実施

中期計画に基づき、企業研究、会社説明会、エントリーシート、筆記試験、面接等、就職活動全般について内定獲得までのプロセスに関する詳細なアンケートを実施し、国際交流センターラウンジコンピュータ６台で見られるようにした。今年度は内定者６名分を掲載した。

⑥　就職支援室との連携

本学では就職支援室が全学の就職支援活動を展開しているが、留学生関係の求人情報、就職フェア情報などは随時就職支援室から情報提供を受けている。また、就職支援室からの要請で、日本国内外の就職先を問わず、全留学生の就職先の確認作業を毎年実施している。

⑦　北陸経済連合会主催「北陸地域における留学生人材活用・グローバル人材育成研究会」で講演

本学の留学生就職支援活動が評価され、講演を依頼されることが多いが、今年度は下記のとおり金沢で講演した。計４回の研究会のうち第１回は「グローバル人材育成に関する大学の取り組み」とうことで国際交流センター中島清教授が講師を担当した。北陸地域に必要なグローバル人材育成のしくみを構築し、提言をまとめることを目的としたもので、北陸３県それぞれの産官学民の代表が参加した。

日　時　　平成25年12月９日（月）　14:00－16:30

場　所　　金沢勤労者プラザ
演　題　　福井大学における留学生就職支援について(14:00－15:00)
参加者数　20名(講師以外は全4回に参加)
講演者　　中島清（福井大学国際交流センター教授）
　　講演の後、グループディスカッションに参加

⑧　就職支援における課題

ⅰ　就職支援の最大のポイントは求人会社の確保である。平成13年度、14年度、18年度と過去３回「県内企業と留学生の懇談会」を開催したが、平成19年度より、本学国際交流センターラウンジでの個別会社採用説明会に力点を移している。その呼び込みを更に推進する必要がある。

ⅱ　本学就職支援室との連携をさらに推進する必要がある。

ⅲ　県内企業採用担当者のメーリングリストの拡充が必要である。

ⅳ　就職後熱意をもって仕事を継続できるように、働くことの意義、動機付け教育を推進することも課題である。

ⅴ　各国同窓会支部網を通しての母国企業への就職支援も更に強化する必要がある。

６）日本人学生の海外留学支援

①　人員体制

日本人学生の海外留学を支援する専任教職員は平成25年７月まで配置されていなかった。それまでは日本語・日本事情教育部門の教員１名が担当していたが、平成25年９月に海外留学を支援する専任教員が着任し、その業務を行っている。

②　相談状況

国際課への相談は約50件あった。中長期交換留学については、米国留学についての相談が主流であるが、米国大学で通常授業を履修するために必要な TOEFL550に満たないため、米国大学への留学を断念せざるを得ないというケースが多い。また、短期留学も含めて、経済的支援の有無に関する問い合わせ、相談が増加している。

③　情報提供

ⅰ　学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレット等の配布

国内外の各種団体から海外留学案内ポスターやパンフレット等が送付されてくるので、随時、国際交流センターロビー及び大学会館1階の「留学 OASIS」の掲示板に貼ったり、書架に展示したりしている。また、部数に余裕があるときは、学生が自由に持ち帰れるようにしている。

④　海外留学状況

ⅰ　交換留学による海外留学者数

平成25年５月現在、本学には留学生が191名在籍している。本学の理念である、「地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成」、特に国際社会に貢献し得る人材の育成のためには、日本人学生の海外留学の推進が引き続き重要である。

ⅱ　協定校等が開催する短期研修プログラムへの派遣

平成 25 年度グローバル人材育成推進事業にかかる海外研修プログラム一覧（実績）

	タイプ	国・地域	派遣大学	プログラム概要	期間	実施時期	対象	参加人数	単位付与	所管・連携
1	文化体験・交流型	大韓民国	釜慶大学校	現地学生とバディを組み、文化体験や韓国語研修、遺跡地見学、グループ活動、発表を行うことで異文化理解力やコミュニケーション能力を養成する。	2W	8/4-8/17	工学	1	○	国際交流センター
2	文化体験・交流型	大韓民国	東亜大学校	韓国語の初級レッスンや政治経済、文化等に関する特別講座やフィールドトリップを通して異文化理解を図る。また、韓国人学生とのパートナーシステムをとることで、コミュニケーション能力を高める。	2W	8/4-8/17	全学	4	○	国際交流センター
3	グローバル教養型	タイ	キングモンクト工科大学	タイ語や英語の研修、タイ文化の座学講義により知識を深め、CSR 活動（郊外の学校に訪問・ステイし、外国語ティーチング等を行う）により、様々な国籍の学生と協働し、コミュニケーション能力、協調性、問題解決能力や柔軟性の向上、異文化理解に活かす。	2W	8/19-9/2	全学	2	○	国際交流センター
4	語学研修型	アメリカ	ポートランド州立大学	午前中は日本大学生用特別クラスにて英語研修へ参加し、午後はボランティアリズムまたはアメリカ文化を学習する。滞在中はホームステイを通して英語力および異文化理解力を向上させる。	3.5W	8/22-9/15	全学	12	○	語学センター
5	語学研修型	ニュージーランド	オークランド大学	ニュージーランドにあるオークランド大学にて、英語4技能習得を目的とする語学研修へ参加し、学生の英語力をバランスよく向上させる。	3.5W	8/31-9/21	全学	14	○	語学センター
6	文化体験・交流型	大韓民国	嶺南大学校	韓国語や韓国文化の講義だけでなく、フィールドトリップを通して韓国の世界文化遺産へ訪れることで、語学力と異文化理解力を養成する。	1W	9/8-9/14	工学	2	○	国際交流センター
7	語学研修型	カナダ	トロント大学	学生の英語レベルに応じたクラスで、多国籍な学生たちとスピーキング及びリスニングを中心に学ぶ。滞在中のホームステイを通して多文化共生都市で英語力および異文化理解力の向上を図る。	4W	2/9-3/9	全学	12	○	国際交流センター
8	語学研修型	アメリカ	ポートランド州立大学	午前中は日本大学生用特別クラスにて英語研修へ参加し、午後はボランティアリズムまたはアメリカ文化を学習する。滞在中はホームステイを通して英語力および異文化理解力を向上させる。	3.5W	2/20-3/17	全学	6	○	国際交流センター
9	専門分野型	中国	上海理工大学	初心者向け中国語・文化講義、英語・日本語による工学系講義、海外研究プレゼンテーション・討論、海外企業経営・技術論、海外インターンシップなどを通して語学力向上、実践的・国際的な思考力の育成を目指し、大学院における国際性豊かな高度技術者育成に向けた導入教育を行う。	2W	3/2-3/15	工学 U4以上	24	○	工学部・工学研究科 国際交流センター

⑤　日本人学生の海外留学支援における課題

平成23年４月に開設された語学センターの英語教育、平成24年開設の国際課を中心にした留学プログラムの拡充と運営、それぞれが学生の間に浸透し、学内に国際教育、および留学の雰囲気が生まれつつある。

その成果は短期留学プログラムに参加する学生数の急激な伸びを見れば明らかである。しかし、一方で中・長期の交換留学参加者数は未だ一桁の横這いである。したがって、中・長期の交換留学への参加者数を伸ばすために、以下のような全学的な取組を行うことが必要である。

❶単位の実質化を達成するための教育改革を行い、学生が英語をはじめとした語学学習に専念、留学に必要な語学運用能力を身に付けることが出来るようにする。

❷魅力ある交換留学提携校の拡大と同時に、各大学の情報提供を充実させる。

❸１学期、あるいは２学期留学しても４年間で卒業できるよう単位認定制度を構築する。

❹持続性のある交換留学制度を構築するために、英語開講科目と日本語教育を充実させる。

つまり、国際通用性のある教育システムとカリキュラム、および単位認定制度の構築により、大学間協定を通して学生のモビリティを高め、本学を競争力ある大学にしていくことが中・長期の交換留学生の増加につながるものと考える。それが本学の長期的課題である。

３　学内交流活動

留学生相互の交流、日本人学生との交流のために、学内交流活動を推進している。その目的は人間関係のネットワークを通して、①留学生の精神的な安定を図ること②相互扶助の関係を構築すること③留学生および日本人学生の国際性の涵養を図ることなどである。

尚、学内交流活動は福井大学留学生会が中心となり実施している。

表８　平成25年度学内交流活動実績

	月　日	活　動　報　告	人数
1	４月12日	オリエンテーション	50
2	４月14日	第166回スポーツ大会（第69回バスケット　第109回バレーボール）	30
3	４月19日	Welcome Party	30
4	４月29日	第167回スポーツ大会（第70回バスケット　第110回バレーボール）	26
5	４月30日	第168回スポーツ大会（第77回サッカー 第66回バトミントン 第71回バスケット）	19
6	６月23日	第169回スポーツ大会（第72回バスケット　第111回バレーボール）	21
7	６月26日	キャンプ実行委員会	10

	月　日	活　動　報　告	人数
8	６月30日	第170回スポーツ大会（第73回バスケット　第112回バレーボール）	27
9	７月３日	就職説明会	5
10	７月９日	学内進学説明会	16
11	７月15日	第171回スポーツ大会（第74回バスケット　第113回バレーボール）	15
12	７月21日	第172回スポーツ大会（第67回バスケット　第114回バレーボール）	21
13	８月7‐8日	第12回国際交流キャンプ	23
14	10月18日	オリエンテーション	80
15	10月29日	Welcome Party	23
16	11月23日	第173回スポーツ大会（第75回バスケット　第115回バレーボール）	19
17	11月24日	第174回スポーツ大会（第78回サッカー　第68回バトミントン　第116回バレーボール）	27
18	11月26日	スキー旅行／こころねっと編集会議	19
19	12月17日	忘年会	28
20	12月18日	スキー旅行説明会	29
21	１月７日	スキー旅行支払	50
22	１月10日	天晴データネット会社説明会	2
23	１月15日	スキー用具貸出	38
24	１月17日	第12回スキー旅行	41
25	１月21日	スキー用具返却	32
26	１月22日	スキー用具返却	6
27	１月23日	留学生と教職員の交歓会	100
28	１月28日	リフトチケット支払	35
29	２月12日	スキー用具貸出	32
30	２月14日	第13回スキー旅行	37
31	２月17日	スキー用具返却	25
32	２月18日	スキー用具返却	8
33	２月18日	さようならパーティ	16

１）定期交流活動

平成13年度より毎週第一、第三、及び第五木曜日には国際交流ラウンジを、また、第二、第四木曜日にはビデオショウを実施してきたが、国際交流ラウンジについては、福井大学語学センター発足に伴い、語学センターより国際交流ラウンジをその活動の柱の一つにしたいという要請があり、平成23年度後期よりその活動を語学センターに移管した。ただ、その活動案内配信については、国際交流センター相談・交流担当教員が引き続き行っている。

ビデオショウについては、昨年度まで実施したが、インターネット上で世界中の映画がアクセスできること等もあり、参加者が減少してほとんどいない状態に至り、今年度は１回も実施しなかった。

２）その他学内活動

その他の主な活動としては、福井大学留学生会主催による、８月の国際交流サマーキャンプ（１泊２日、越前海岸での水泳、国見岳宿泊バーベキュー。今年度は23名参加。参加費3,000円)、及び２回の国際交流スキー旅行（本学よりバス約1時間のスキージャム勝山への日帰旅行。１月41名、２月37名参加。参加費1,000円）がある。その他に、サッカー、バレーボール、バスケットボール、などのスポーツ大会、歓送迎会、忘年会などを実施している。特に平成20年度から福井大学留学生事務局の種目別スポーツ委員会が編成され、毎週日曜日午後15:00－19:00に本学体育館を予約して、スポーツ種目の月間予定表に従って実施していて、毎回20名前後が参加している。ただ、体育館予約はクラブ活動を優先するため、予約がうまくいかず今年度後期は実施できなかった。

３）福井大学留学生会

①　設立背景と事務局構成

平成15年11月に福井大学留学生同窓会が発足したが、それを機に、その同窓会事務局の提案により、福井大学留学生会が平成16年４月に発足した。その目的は、留学生相互の交流と相互扶助、日本人学生および地域社会との交流である。福井大学留学生会の会長は福井大学中国人留学生学友会長が務めることになっているが、事務局長およびその他の事務局員は毎学期開始時に事務局会議を開催して選任される。そして、各種行事毎の実行委員会が編成され、実行委員会を中心に行事を企画運営している。

②　福井大学留学生会の活動

福井大学生協学生組織 SOSEN 部などと協力しながら、国際交流ラウンジ、歓送迎会、国際交流キャンプ、国際交流スキー、各種スポーツ大会などを実施している。また、地域社会との交流活動としては、県内国際交流団体が主催する行事に積極的に参加している。また、地震・津波など災害救援のための募金活動などもその都度行っている。

４）学内交流活動の課題

① 相談交流担当教員は日本人学生との授業等を通した接点がないので、e-mail 網等の構築が難しい。現在は、各種活動に参加する日本人学生から個別に情報を収集しネットワークを構築している。

② 留学生の大半は私費留学生であり、生計維持のためにアルバイトをしなければならず、実験やレポートなど課題が多く、時間が取れないため、参加したくても参加できない学生が多い。

③ 他方、留学生個々人が様々な活動に参加できないと、相談交流担当者との接触が薄くなり、徐々に顔が見えなくなる。そして、ある日突然大きな問題を抱えて相談に来ることになる。

④ 従って、各種交流活動に参加しなくても、常に、目の届くような体制構築が課題である。

⑤ 学内外の交流活動に参加するあまり研究が疎かにならないかと懸念する指導教員もいるのでそれも考慮する必要がある。

４　地域社会との相互支援交流活動

１）小学校等への一日講師派遣

地域社会は温かく留学生を迎え、受入れ、支援してくれている。留学生も地域の国際化のために、何かをし、喜んでもらう。その満足感、達成感、充実感こそが自己の存在意義、社会貢献の証しとして懐かしい思い出となる。ギブ＆テイクのベクトルは常に双方向の満足感を伴うが、ギブによる思い出こそが知日派、親日派を育てると認識している。その認識から、小中学校の総合学習、企業への通訳・語学講師派遣など、地域社会の国際化支援活動を展開している。

留学生センターとしての留学生派遣状況は平成14年度(25件)から全て記録してあるが、平成25年度の派遣実績は42件となっている。

尚、これらの件数はあくまでも、相談・交流担当教員が直接介在して派遣したもので、地域社会と関係が重層的に構築される中で、国際交流センターを通さず、留学生が直接、地域各交流協会の語学講座講師や文化教室講師、また公民館や幼稚園の活動等に参加している例も多い。

派遣の流れと、派遣実績は表９及び表10の通りである。

表９　留学生派遣の流れ

派遣１ヶ月以上前	各小中学校等からの派遣要請受付
	↓
派遣１ヶ月前	派遣依頼概要書（Ａ４　１頁）を交流担当教員に e-mail 送付
	↓

派遣依頼概要書の内容調整と確定

↓

４週間前　派遣依頼情報を全留学生に e-mail で一斉発信し、参加希望者募集

↓

留学生⇔交流担当教員⇔派遣依頼小中学校等で調整

↓

派遣者確定及び派遣者名簿を小中学校へ送付

↓

２週間前　小中学校長等より学長宛派遣依頼書を正式送付

↓

国際課派遣稟議起案・決済 → 結果を当該指導教員に連絡

↓

実施日　留学生派遣

表10　平成25年度の留学生派遣実績

	月　日	派　遣　項　目	人数
1	５月17日	ふくい市民国際交流協会「外国人講師募集の説明会」	
2	５月25日	インターナショナルさかいGround Golf Tournament & BBQ Party	
3	５月28日	ＦＢＣ　福井観光促進ビデオ　出演者説明会	5
4	５月30日	日本の心と美の祭典　全日本きもの装いコンテスト出場者募集説明会	7
5	６月８日	インターナショナルクラブ　田植え体験	2
6	６月16日	ふくい市民国際交流協会　健康長寿ふくいで、日本人も外国人もみんなで健康に！ スポーツ交流しましょう	
7	６月20日	公社)福井青年会議所　６月度例会 「グローバルコミュニケーション～自らの積極的な変革を～」概要のご案内	5
8	６月29日	宝永小学校「インドネシアとミャンマーの文化、遊びの紹介」	2
9	７月６日	ＦＩＡ留学生ホームビジットプログラム	18
10	７月14日	清水西公民館「韓国料理作り」	1
11	７月22日	すずらん児童館「ラトビア紹介」	1

	月　日	派　遣　項　目	人数
12	７月24日	ふくい市民国際交流協会　第３回ワールドツアー	4
13	７月24日	福井市民国際交流協会「諸外国の文化、クイズ、ゲーム」	3
14	７月25日	ふくい市民国際交流協会「イラクの紹介」	1
15	８月２日	朝宮公民館「バングラデシュの紹介」	1
16	８月３日	ＦＩＡ「浴衣で歩こう～養浩館庭園＆福井フェニックスまつり～」	5
17	8月2日～5日	ふくい市民国際交流協会「杭州市との学生交流事業」通訳	4
18	８月５日	とまと児童館「韓国の紹介」	1
19	８月８日	さくら児童館「地域交流促進事業」	4
20	８月10､11日	福井青年会議所「スマイルキッズキャンプ2013」	6
21	８月19日	中国浙江省麗水市訪問団との交流活動における通訳ボランティア（勝山市）	3
22	８月21日	杉谷集落センター「中国の紹介」	1
23	８月22日	たんぽぽ児童館「韓国の紹介」	1
24	８月26日	ひまわり児童館「ミャンマーの紹介」	1
25	９月24日	ふくい市民国際交流協会六才公民館「マレーシア紹介」	1
26	９月26日	糸崎ふれあい会館「中国の紹介」	1
27	10月５日	ふくい市民交際交流協会　第４回ワールドツアー　スポーツ交流しましょう！	
28	10月21日	福井県浙江省友好提携20周年祝賀会通訳	5
29	10月23日	中国自動車市場販路開拓事業・個別相談会通訳	2
30	10月26日	日本赤十字福井支部青少年赤十字『高校生国際交流の集い』	3
31	10月27日	福井国際交流フェスティバル	35
32	11月３日	本郷公民館「ドイツ紹介」	1
33	11月10日	2013越前町国際交流フェスティバル	6
34	11月15日	長橋小学校校外学習通訳	1
35	11月19日	長橋小学校校外学習通訳	1
36	11月23日	永平寺町吉野公民館「おらが村でも国際交流」	5
37	11月30日	ふくい市民国際交流協会おさごえ民家園でそば打ち＆お正月のしめ縄作り	
38	11月30日	坂井市高椋公民館　ミャンマー料理教室（インターナショナルさかい）	1
39	12月７日	～福井県・浙江省友好提携20周年記念事業～浙江省フェスティバル	1

委員会委員長として平成26年３月17日の委員会に参加し、事業評価と評価書作成に当たった。

② 福井県国際交流協会及びJICA北陸支部との連携

福井大学留学生センターは福井県国際交流協会及びJICA北陸支部が実施する「ハローワールド」事業が発足した平成15年より事業協力機関として、同事業実施対象小学校に留学生を講師として派遣している。平成25年度は「ハローワールド」実施対象９校（小学校７校、中学校２校）の内、小学校１校留学生を派遣した。尚、本事業開始時より相談・交流担当教員が選考委員として協力している。

③ 福井家庭裁判所での家事調停支援

平成25年12月31日現在福井県内に外国人登録者が11,160人（内福井市3,685人）いるが、国際結婚のカップルも多い。福井家庭裁判所では離婚、親権、養育費、婚費分担、婦権侵害等々家庭における様々な問題の調停を行っているが、相談・交流担当者は平成14年10月に福井家庭裁判所家事調停員、平成16年１月に同参与にそれぞれ任命され、それ以降今年度まで家事調停及び家事審判業務を行っている。

留学生や研修生等国際関係業務に40年間携わった経験を生かし、また、海外生活10年の経験を踏まえ、主として国際結婚における夫婦関係調整の調停を今年度も担当した。

月１、２回、そして１回３時間ほどの業務であるが、異文化摩擦に起因する夫婦関係の調整をするという社会的貢献だけでなく、調停作業を通して調停員自身の社会規範等に関する認識を深めることもできるので、本学での相談業務にも役立っている。

３）商工会議所等産業界とのネットワークと交流活動

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延びる、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。

他方、留学生も卒業後、実務経験を身につけたい、更には、人生設計を日本の産業界に求めたいという学生が増えている。日本社会が抱える少子化、そして、世界的な人的移動と人材確保競争の中で、国際交流センターとしては、地域国際化支援の核として、地域産業界への人材供給と留学生の就職支援を目的に、平成13年、14年、18年に「県内企業と留学生の交流会」を実施した。その結果、留学生の国内就職者は、平成13年度８名（県内４名）以降、14年度６名（同２名）、15年度16名（同９名）、16年度23名（同９名）、17年度９名（同４名）、18年度は26名（同７名）、そして、19年度は30名（同11名）と着実に増加していたが、それ以降は、20年度は19名（同８名）、平成21年度15名（同６名）と減少した。平成22年度は21名（同７名）、平成23年度20名（同10名）平成24年度21名（同７名）とやや持ち直した。今年度は16名と少ないが、この数字は必ずしも就職活動自体が厳しかったということではなく、就職希

望者が少なかったためと認識している。今後も商工会議所、JETRO 等と連携しながら、留学生の国内就職、特に県内企業への就職を推進していきたい。

4）ネットワーク誌「こころねっと」の発行及び地域・国際交流ネットワークの構築

①　ネットワーク誌「こころねっと」の発行

卒業留学生、在学留学生、教職員、日本人学生、地域産官学民各界とのネットワーク構築のために国際交流センターネットワーク誌「こころねっと」を平成13年秋号以降毎年発刊している。平成25年度も第14号2,300部を発行した。「こころねっと」の概要は下記の通り。

表11　「こころねっと」概要

発行部数	2,300部
体裁	Ａ５版、46ページ、カラー印刷
配布先	卒業留学生、在学留学生、本学教職員学生、地域国際交流機関・ 個人、県下全小中高校、各大学留学生センター、他
編集	在学留学生中心の編集委員会（約10名）
内容	在学・卒業留学生投稿記事２／３、センター行事等１／３が目安。 行事感想、生活・旅行・映画・読書等体験、各国文化・社会紹介 各国挨拶紹介、各国料理紹介、帰国留学生からのメッセージ

②　地域・国際交流ネットワークの構築

地域・国際交流活動を推進するため、卒業留学生を含むネットワーク構築とその活用を図っている。構築媒体として、「国際交流センターホームページhttp://ryugaku.isc.u-fukui.ac.jp/」の役割も大きいが、ネットワーク構築の基盤となるのが、住所及びメールアドレスの登録と管理である。eメールによる受発信で全世界の仲間たちと常時交信し、心の絆を醸成し日々のコミュニケーションを行っている。

その登録状況は下記のとおりである。

ネットワーク誌「こころねっと」発送等のための登録住所概数（ラベル打出用）

帰国及び在日卒業留学生	1,100件
県内小中高、企業、機関等	700件

情報発信、交流促進のためのメールアドレス概数（携帯等重複）

帰国及び在日卒業留学生	1,000件
在学留学生（携帯等重複）	200件
その他	500件

５）福井大学留学生同窓会活動

①　福井大学留学生同窓会設立の背景

昭和45年に福井大学第１号留学生 Lim Kim Teck 氏が工学部繊維染料学科に入学して以来、約1,860名の留学生が福井大学で学び、約1,400名が帰国し、約200名が卒業後日本国内に就職して勤務中である。平成13年秋のネットワーク誌「こころねっと」創刊に当たり、帰国留学生全員の住所ラベルを作成し、冊子を送付した。その中に、「福井大学留学生同窓会登録用紙」を同封したところ、多数の返信があった。そこが設立の出発点である。

②　福井大学留学生同窓会設立

文部科学省より特別配分予算を受け、平成15年11月30日に「第１回福井大学留学生同窓会大会」を開催。招聘した帰国留学生13名及び在学留学生計91名が参加し、同窓会設立宣言文を採択した。そして、劉丁会長以下事務局を選任した。

③　支部設立の動き

平成16年12月マレーシアのクアラルンプールで「福井大学留学同窓会マレーシア支部設立大会」が開催され、支部設立宣言文の採択と事務局選出が行なわれた。その後、タイ、インドネシア、韓国、西安、上海、杭州、台湾、北京、ハンブルク支部が設立され、平成20年11月に日本国内支部、そして、平成21年12月にバングラデシュ支部、平成23年12月にはミャンマー支部が設立された。現在13支部が活動を展開している。

④　同窓会の活動

同窓会の活動としては、①支部会員相互の情報交換、交流や連携活動 ②他国支部との情報交換、交流や連携活動 ③福井大学を含む福井県産官学民との交流 ④各国と日本の経済・文化交流などがある。

⑤　福井大学留学生同窓会世界大会の開催

平成25年９月８日、福井大学留学生同窓会13支部の代表等、卒業生27名を含む参加者100名が福井大学文京キャンパス13階会議室に集い、親交を深めた。2003年11月30日に福井大学留学生同窓会設立大会を開催してから丁度10年の節目にあたり感慨深いものがあった。

「福井大学留学生同窓会13支部内、支部相互及び福井大学とのネットワークを通した協働について考える。特に「グローバル人材育成」について考える。また、同窓会相互間及び福井大学教職員学生間において情報共有し、親睦を深める」というのが大会の趣旨である。

まず、13支部代表、およびメキシコとブラジルの代表が活動状況について報告し、コーヒーブレイクの後、意見交換を行った。（詳細は報告書参照）

世界大会のテーマの一つとして「グローバル人材育成」を掲げた。日本人若者の内向き志向を打破し、グローバル人材として育成するための文部科学省「グローバル人材育成推

進事業」に本学が採択されたこともあり、日本人学生のグローバル化教育に留学生先輩たちの支援をお願いした。

⑥ 「スプリングプログラム in 上海」

４－２)－①－ｉで記載したとおり、25年度も第６回「スプリングプログラム in 上海」を実施した。今後も継続実施の予定である。このプログラムは上海理工大学、留学生同窓会上海支部、福井県（特にその上海事務所)、及び現地進出福井県企業、４者の共同事業であり同会活動のモデル事業と位置付けている。受講科目は工学研究科博士前期課程入学後、履修科目として単位認定される。また、本プログラムの最終日には関係者への感謝を込めて、交流会を実施しているが、福井大学留学生同窓会上海支部会員も毎年15名ぐらいが合流している。

⑦ 「浙江理工大学サマープログラム」

平成23年度より実施している中国語学習を中心とした「浙江理工大学サマープログラム」（３週間）を今年度も企画募集したが、応募者が少なく、実施できなかった。

６）福井県留学生交流推進協議会

県内産官学民の計30団体機関が会員となり、「福井県における留学生の円滑な受入れの促進及び留学生と地域住民との交流活動を推進する」ことを目的として活動しているが、国際交流センターからは、センター長及び相談交流担当教員がその運営委員会委員として参画している。また、福井大学国際課がその事務局となっている。

その主な活動としては、「留学生救済援助金」による国民健康保険料助成、情報交換などである。また、毎年、「福井県留学生だより」を国際課が編集し、発行している。センターの諸活動についてもそこに掲載し地域に発信している。

７）課題

① 地域社会相互支援活動と留学生の学習・研究活動のバランス

留学生の本分は学習・研究等であるため、交流活動によってそれが阻害されてはならない。交流活動に熱中し過ぎて研究論文作成が疎かになっているという苦情を時折指導教員よりいただく。その意味で、募集においてはあくまで学生個々に直接依頼せず、一斉メールで募集し、派遣稟議決済後その写しを指導教員に回付することにしている。

又、留学生は遠方の派遣先に自転車で向かうことが多いことから、事故等に備えて派遣先に一日傷害保険をかけるよう依頼徹底している。

実験などに追われる留学生は交流活動に参加する余裕がなく、小学校等からの要請に沿う留学生を確保するのはなかなか難しい。従って、余り積極的な派遣活動を展開することは出来ず、そのバランスが大切である。

② 同窓会各国支部網の活用

同窓会各国支部網、ネットワーク誌「こころねっと」を通したネットワーク、帰国及び在日卒業生の住所や e-mail アドレス網は本学、及び地域社会の国際化戦略における重要なインフラと考えている。小規模大学が海外事務所を持つことは難しいが、同窓会支部には本学の海外窓口としての役割を期待し、それを既にお願いしている。

③ 今後の活動方向

・同窓会及び在学生が連携して、地域社会の国際化に貢献できるような活動の模索が必要である。
上海支部及び西安支部が編成し来訪したミッション型交流もそのプロトタイプであると言えるが、ミッション型交流をいかに継続実施できるかも課題である。

・本学教員が各国支部と協力して、現地で産官学民の参加者を集めて、シンポジウムや講演会を実施し、その中から国際共同研究のシーズを発掘し、更にそれに県内企業を巻き込む活動も望まれる。

・同窓会支部網の活性化と、活動内容に関する情報交換のために、福井大学同窓会世界大会を夢見てきたが、今年度実現した。グローバル人材育成推進事業の評価・推進を目的に３年後も世界大会を開催する予定である。世界大会を有意義なものとするためには、新たな発想による事業展開が課題となる。